

② 旧官立弘前高等学校創立40周年記念碑「虚空に羽ばたき碑」



人文社会科学部の中庭に建つ三基の石碑の中で一番大きな碑が「虚空に羽ばたき碑」です。昭和35年(1960)5月、旧制弘前高等学校創立40周年を記念し、同校同窓会により建立されました。碑文は、第七代校長 龍山義亮先生の揮毫による旧制弘前高等学校校歌1番の出だしの一節が刻まれています。

大正9年(1920)11月、官立弘前高等学校が設立され、初代校長に鹿児島県立第一中学校校長であった秋田實先生が任ぜられました。秋田校長は仙台の旧制第二高等学校から東京帝国大学に進み、支那哲学を学び、漢籍に造詣が深い方でした。そこで、雄志を抱いて学ぶ弘高生を、『莊子』冒頭の「逍遙遊篇第一」にでてくる「北溟(北の果ての海)で育った鯤(コン)という魚(鯤には魚の子の意もあり)が、鳥と化して南を圖り飛び立つ」大鵬になぞらえ、時空を超えて世界に羽ばた

く人間になれと希求しました。

さらに秋田校長は、第二高校の先輩で、『荒城の月』で有名な土井晩翠に弘前高校の校歌の作詞を依頼しました。土井晩翠は秋田校長の「南を圖って飛び立つ大鵬」に託した趣旨を理解し、「虚空に羽ばたき南を圖る」で始まる歌詞を書き上げました。

ちなみに、旧制弘前高校、弘前大学の北溟寮命名の由来も、『莊子』「逍遙遊篇」の大鵬寓話によるものです。

〔引用文献〕

1. 旧制弘前高等学校同窓会(編)(2005). 旧制弘前高等学校史, 3-4, 219.
2. 本間正行(2004). 学園だより キャンパス散策「弘前大学構内の記念碑」, 142, 34.